

日出生台米軍演習への 新しい火器 追加問題

～現状の共有と次の取り組みについて～

昨年末、12月23日 九州防衛局が 突然、県庁を訪れた

注目ワード

#衆院選へ

#ポケパーク カントー

#パンダ

#中東情勢

#ベネズエラ

日出生台演習場の実弾訓練、米軍「新たに対装甲車両火器4種類を使いたい」...迫撃砲やロケットランチャー

2025/12/24 14:38

シェアする



米軍が追加したいと伝えてきた4種類の火器

【参考】対装甲車両火器の諸元

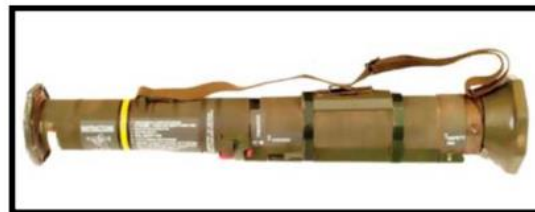
【60mm迫撃砲】



【84mm MAAWS 】



【84mm AT-4】

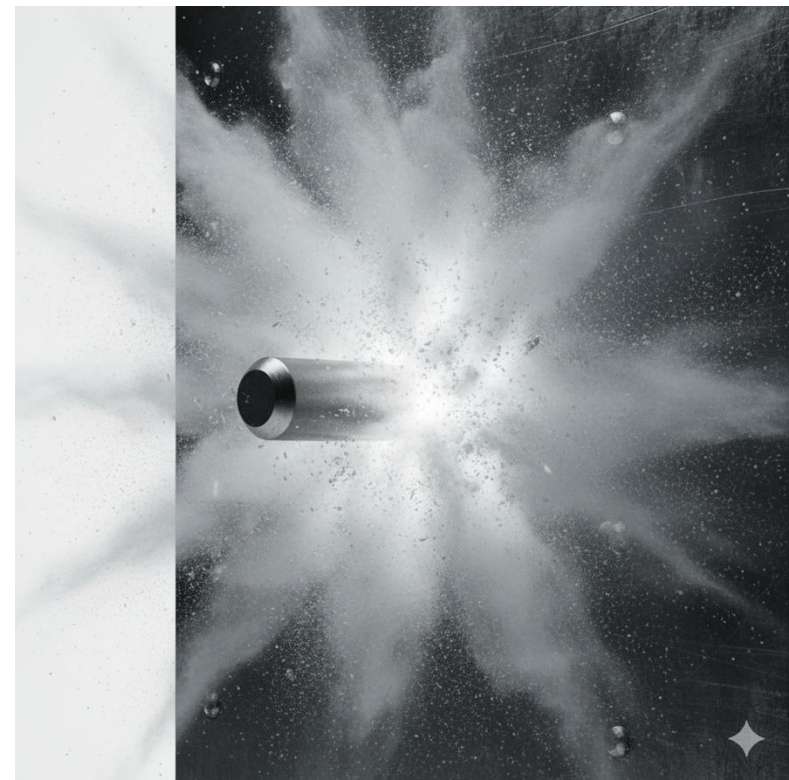


【81mm迫撃砲】



「対装甲車両火器」

「分厚い鉄板を貫通する性能を確保するため、**タングステン**などの高密度の金属材使用。
着弾時の衝撃で微細な粉末が広範囲に
飛散。一度地下水が汚染されれば、そ
の浄化には天文学的なコストと時間が
必要となり、事実上「回復不能」。



2006年 米国 タングステンによる水源汚染

(米国マサチューセッツ州 キャンプ・エドワーズ)

タングステンによる深刻な汚染。

急激に地下水へと溶け出す危険性が判明。

米陸軍は**使用を**

全面的に停止

(回収)。



- 1.使用する弾種・弾体材料（重金属等）の
正式照会と開示
- 2.「1996年以前と同質同量」との
説明の根拠となる訓練実態の確認
- 3.これらが確認・説明されるまでは
受け入れないよう要請

【大分県への申入時の県の回答(2026.1.20)】

- ・現時点では未判断。防衛局の具体的説明待ち。
- ・判断軸は「縮小廃止につながるか」の一点
- ・環境・地下水・健康は“大前提”

今回も

1996年（および**2007年小火器追加時**）の

基準に“入るかどうか”を照合する

では

2007年の「小火器」追加時には

大分県は

どのような基準で受け入れたのか

小火器訓練 受け入れ



米軍小火器訓練の受け入れを決めた四者協＝22日、県庁

四者協 射撃日数の2日削減で 「国と確認書締結」

日出生台演習場での米軍小火器(小銃、機関銃など)訓練の実施問題で県、由布市、玖珠、九重両町でつくる日出生台演習場問題協議会(四者協)は二十二日、県庁で会議を開き、本年度の在沖繩米軍の訓練を協定より二日少ない八日間で実施すること、小火器訓練の受け入れを決めた。(21面に関連記事)

本年度の在沖繩米軍の局から地元へ申し入れが「練の拡大になる」と五月「(国が)縮小につながる」を支持し、十月初めに日出生台演習場での小火器あり、四者協は「(日出)十六日に文書で拒否を伝える措置をすれば受け入れ器訓練実施については四生台演習場の米軍使用にえた。しかし、九月定例「ざるを得ない」と発言。に縮小を要請した。月十二日、福岡防衛施設関する)協定がなく、訓県議会で広瀬勝貞知事が四者協も同月末にこの考二十日には防衛施設庁

日出生台演習場での小火器訓練実施に向けたこれまでの経緯

	国の動き	県など地元の対応
06年1月30日	守屋防衛庁事務次官らが06年訓練での小火器訓練実施を要請	訓練拡大は容認できないと拒否
1月31日	額賀防衛庁長官が電話で広瀬知事に実施要請	広瀬知事が拒否
4月12日	福岡防衛施設局が07年訓練での実施を文書で要請	
5月16日	福岡防衛施設局は拒否回答を受け取り、再度実施要請	福岡防衛施設局に文書で拒否を回答
6月16日	福岡防衛施設局が米軍小火器訓練を説明	
7月16日		四者協が日出生台演習場で陸上自衛隊の小火器訓練視察
8月9日	福岡防衛施設局から王城寺原演習場での米軍小火器訓練の説明	「必ずしも拡大にはならない」と県が見解
9月14日		広瀬知事が県議会で条件付き受け入れ発言
9月29日		四者協が条件次第で受け入れの基本方針で合意
10月3日		県が福岡防衛施設局に規模縮小を要請
10月20日	防衛施設庁が条件提示	
10月22日		四者協が小火器訓練受け入れ決定

< 県が受け入れた条件 >

- 2日削減（協定枠の10日→8日に）
- しかも本年度の1回限り

引き換えに、**小火器の恒久的追加**

【知事の9月議会答弁】

「（国が）

縮小につながる措置をすれば、
受け入れざるを得ない」

**では、「米軍演習の2日短縮」は
住民の「負担軽減」になるのか？**

[九州防衛局について](#)[九州防衛局の取組](#)[入札・契約情報](#)[採用情報](#)[広報・イベント](#)[各種手続き](#)

演習場周辺の砲撃音等騒音発生状況

[TOP](#) > [九州防衛局の取組](#) > [各地区等の取り組みについてのお知らせ](#) > [周辺対策事業](#) > 演習場周辺の砲撃音等騒音発生状況

九州防衛局では、平成30年4月より日出生台演習場周辺の4地点に設置している砲撃音自動測定装置で測定した騒音状況を公開しています。
このページでは、日毎と月毎のLcden値、騒音発生回数及び測定地点を閲覧することができます。

[令和7年度 ▼](#)[令和6年度 ▼](#)[令和5年度 ▼](#)[令和4年度 ▼](#)[令和3年度 ▼](#)[令和2年度 ▼](#)[令和元年度 ▼](#)[平成30年度 ▼](#)[このページに関するお問い合わせ先 ▼](#)

令和7年度 演習場周辺の砲撃音等騒音発生状況

[日出生台演習場](#)

日出生台演習場周辺の砲撃音騒音状況

(2018年度~2024年 宇佐市、由布市、玖珠町、九重町)

年度	年間騒音発生回数（4地点平均）
2018年度	4812
2019年度	4274
2020年度	4008
2021年度	3976
2022年度	3456
2023年度	4039
2024年度	2428
7 年平均	3999

この表に米軍訓練が

行われた年と

行われなかった年が

わかるようにしてみます

日出生台演習場周辺の砲撃音騒音状況

(2018年度~2024年 宇佐市、由布市、玖珠町、九重町)

年度		年間騒音発生回数（4地点平均）
2018年度	米軍演習なし	4812 1番多い
2019年度	米軍演習8日	4274
2020年度	米軍演習なし	4008
2021年度	米軍演習なし	3976
2022年度	米軍演習10日	3456 少ない方から2番目
2023年度	米軍演習なし	4039
2024年度	米軍演習7日	2428
7年平均		3999

年間の騒音発生回数と
米軍演習の有無・日数増減は
関連がない

【結論】

米軍演習の日数調整（「2日削減」措置）が
「住民負担の軽減」につながると言う県の主張は、事実誤認に基づく判断。

1年中、砲撃音にさらされている周辺住民の
実質的な「負担軽減」には関係ない。

日出生台米軍演習 過去全16回の【訓練日数比較】

(1998年度～2024年度)

射撃日数	回数
10日	2回 (2009年, 2022年)
9日	2回 (2003年, 2005年)
8日	9回
7日	2回 (2017年, 2024年)
5日	1回 (2010年)

総計

・日数分布:

最頻値は「8日」

「10日」は2回だけ

【結論】

つまり、わざわざ「2日削減(8日)」にしなくても
16回中9回の訓練が「8日」だった。

県は「2日削減（8日）」を取引条件に
小火器訓練を恒久的に受け入れさせられたが、

- 「本年度」 1 回限りの話
- 「2日削減」 は住民負担の軽減にならない
- 元々、「8日」の年が一番多かった

ここで、再度、

1月20日の県への申し入れ時の

県側の**気になった発言**を確認

「小火器を受け入れた際に、小火器は、例えば、榴弾砲と一緒に撃たない。総人数も車両数も変わらない。日数に関しては「次の演習の時は射撃日数を減らす」と（国から）回答をいただきました。それをもって、当時、知事も、いわゆる「訓練の拡大」にはあたらないと判断をして受け入れたものと承知しております。

なので、今回も、もしそういう形になれば、具体的に先ほど言ったどこが軽減に繋がるのか、いわゆる拡大じゃないってところを、ちゃんとご説明いただけるというのが大前提と考えてます。」

2006年型詭弁が、
県の“思考テンプレート”として
現在も生きていることの自白

【結論】

大分県は、前回と同様に防衛局が
一見「負担軽減」に見える提案をしてくれば
受け入れてしまう可能性が高い

【では今後どうする？】

県に質問書を提出します